

## 第2章 「道の駅」整備の基本方向

### 2-1 地域課題と「道の駅」の整備コンセプト

#### (1) 日進市の地域活性化に向けた課題

平成29年2月に策定した基本構想において、日進市の地域活性化に向けた課題を複数あげています。

#### 日進市の課題

- 福祉サービスの充実
- 都市近郊における「農」の展開
- 市民自治活動・地域交流・大学連携
- にぎわい創出に向けた拠点づくり
- 地域環境の保全
- 防災・減災対策
- シティプロモーション・情報発信の充実

\* 詳細は「日進市道の駅基本構想」（日進市、平成29年2月）を参照

## (2) 整備コンセプト

基本構想に示されている「道の駅」の整備コンセプトは次のとおりです。

### 整備コンセプト

## 市民が集い にぎわい 成長し 都市をデザインする「道の駅」

- ・日進市「道の駅」は、従来の「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」+「防災機能」を基盤に、日進市の個性や特性、大学や市民自治活動等の地域資源を活かした、地域課題の解決とともに、これからのまちづくりに向けた地域の拠点としての整備を目指します。
- ・「道の駅」の整備を契機に、さらなる市民間の交流や機能連携が図られることで、都市活力やにぎわいが創出され、持続的なまちの発展と活力につながっていく、市民ベースの都市型「道の駅」の形成を目指します。

### 【整備コンセプトの考え方】

- ・農産物直売・物販施設、コミュニティ・交流施設（子育て支援施設、屋外広場、公園、多目的施設）、防災施設（救急救援場所、防災ヘリポート、防災倉庫）等を有する「道の駅」では、子育て世帯、学生、NPO等、様々な人たちが集まります。また、「道の駅」には農業体験施設（市民農園、実習農園、体験農園）、が隣接しており、農業団体等の人々が集まる場にもなります。さらに、「道の駅」では、地域振興施設を利用する市民のほかに、道路休憩機能として多くの人々が集まります。
- ・これまで、子育て支援、防災・減災、農業振興等、一つの目的のために一つの場所に集まって実施していた活動を「道の駅」で行うことにより、他の様々な人や団体が行っている活動を容易に知り、容易に情報発信できるようになり、情報交換や交流・連携の促進が期待できるようになります。
- ・情報交換や交流・連携が進むことで、大学連携や体験学習等の要素も加わり、さらに市民が集い、にぎわい、「道の駅」を通じて、市民、地域、コミュニティ、大学が主体的に関わり、新しい活動、魅力が生まれ、市民自治活動の発展につながります。
- ・そして、「道の駅」での学びや市民自治活動がまち全体に広がり、まちが成長していきます。市民が都市をデザインする「道の駅」を目指します。

# 「道の駅」の整備コンセプト概念図

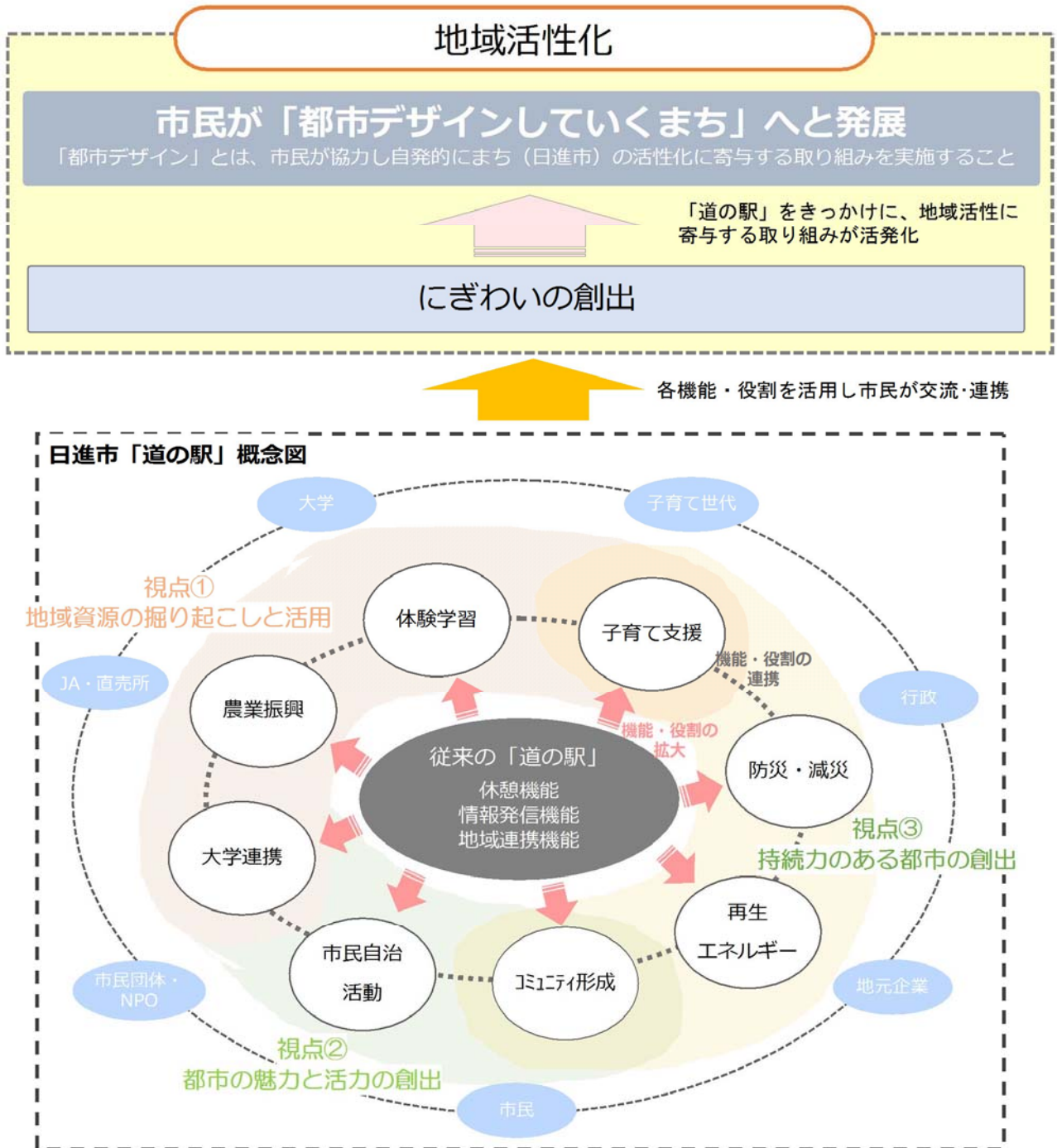


図 7 整備コンセプト概念図

出典：「日進市道の駅基本構想」（一部加筆）

## 2 - 2 重点的に取り組むべき地域課題

複数ある日進市の課題のうち、「道の駅」で重点的に取り組むべき地域課題としては、次の4つが挙げられます。

### 【地域課題① 子育て支援】

- 日進市は、人口・子育て世代が増加しているまちであり、子育て支援ニーズ拡大への対応が必要です。このため、前述した課題「福祉サービスの充実」では、特に子育て支援に着目し、「道の駅」における展開を検討します。

### 【地域課題② 防災・減災】

- 「道の駅」の計画地は、第2次緊急輸送道路に指定されている主要地方道瀬戸大府東海線沿いを予定しています。また、現在の防災拠点である総合運動公園は、緊急輸送道路から離れており、防災機能強化が求められています。このため、前述した課題「防災・減災対策」では、特に緊急輸送道路を活用した防災機能の強化を図る防災・減災に着目し、「道の駅」における展開を検討します。

### 【地域課題③ 農業振興】

- 日進市では、田園フロンティアパーク構想（基本計画）を推進しています。このため、前述した課題「都市近郊における「農」の展開」では、特に農業振興に着目し、「道の駅」を田園フロンティアパーク構想（基本計画）の拠点に隣接して整備することで、相乗効果を図っていきます。

### 【地域課題④ 市民まつり等】

- 日進市役所周辺では、市民まつり（産業まつり）やにっしん夢まつりが開催されていますが、大きな広場がなく、イベント機能が分散化しています。このため、前述した課題「にぎわい創出に向けた拠点づくり」では、特に市民まつり等に着目し、イベント開催の可能性を検討します。

これらの地域課題は、「道の駅」整備を検討するにあたって、日進市が現施策を進めている中で「道の駅」整備にあわせて解決していきたいと考えているものです。

なお、重点的に取り組むべき地域課題として示したものの以外の課題にも積極的に対応していきます。

### 「道の駅」で行う重点的に取り組むべき地域課題への対応

#### 地域課題① 子育て支援

主な整備内容イメージ

- ・子育て支援施設（屋内施設・屋外広場施設）
- ・公園施設

#### 地域課題② 防災・減災

主な整備内容イメージ

- ・人的救助機能の移転
- ・防災ヘリポート
- ・防災倉庫

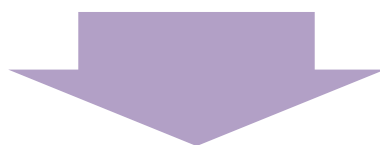
#### 地域課題③ 農業振興

- ・「道の駅」を既計画である田園フロンティアパーク構想（基本計画）の拠点と隣接させることで、田園フロンティアパーク構想（基本計画）をより推進させる

### 「道の駅」が整備されることにより間接的に行う重点的に取り組むべき地域課題への対応

#### 地域課題④ 市民まつり等

- ・「道の駅」での市民まつり等のイベントの開催可能性



1. 「子育て支援」「防災・減災」「農業振興」等の地域課題の解決を図るとともに、これからのまちづくりに向けた地域の拠点となる「道の駅」を目指す
2. 「道の駅」の整備を契機に、さらなる市民間の交流や機能連携が図られることで都市活力やにぎわいが創出され、持続的なまちの発展と活力につながっていく、市民ベースの都市型の「道の駅」の形成を目指す

### (3) 重点的に取り組むべき地域課題に対する「道の駅」における方向性

#### 1) 子育て支援

<p>現 状</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日進市は年々人口が増加しており、平成 72 年まで増加すると推定されている</li> <li>・子ども・子育て世代を中心に人口が増加し、全国平均よりも高齢化率は低い</li> <li>・子どものいる世帯の共働き世帯が増加していて、子どものいる世帯全体の約半数を占める</li> <li>・育児中の家庭の孤立化等が懸念され、子育て支援の充実が求められている</li> <li>・地域での子どもの遊び場が少なく、広場・公園等の整備の要望が高い</li> </ul>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■子ども・子育て世代の人口増加による子育て支援ニーズ拡大への対応が必要</li> <li>■子どもと保護者の孤立化、地域社会の希薄化への対応が必要</li> <li>■共働き世帯の増加による子育てをする親の心のケアが必要</li> <li>■子ども・子育て世帯が増加しているのに子育て支援施設、公園が少ない</li> </ul>
<p>問題点 (現施策 進行上の 問題点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■子育て支援施設の問題点           <ul style="list-style-type: none"> <li>→人口増加に伴い、子育て世帯も増えているが、子育て中の親子が気軽に集まって相談できるような場所が限られており、子育て世代の孤立化が懸念される</li> <li>→子育て支援施設の周知は図っているが、継続した利用に結びつきにくい</li> <li>→既存施設は駐車場が不足しており、駐車場不足を解消するための隣接した拡大用地がない</li> </ul> </li> <li>■子育て世代に対する広場・公園等の問題点           <ul style="list-style-type: none"> <li>→公園そのものの不足</li> <li>→駐車場が不足しており、車で気軽に子どもを連れていける広場・公園等が少ない</li> </ul> </li> <li>■福祉会館（児童館）による子ども支援の問題点           <ul style="list-style-type: none"> <li>→児童館の利用時間は、9時から17時である。また、6館のうち2館（東部、南部）は、日曜日休館である</li> <li>→飲食スペースが限定されている。また、子どもの利用は、主に児童館スペースとなっている</li> <li>→利用者登録制度により、市内在住者と同伴利用でのみしか市外の人には利用できない</li> </ul> </li> </ul>
<p>要望等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■市に寄せられている市民の声           <ol style="list-style-type: none"> <li>①子育て支援施設と公園を並列して設置した方が利用しやすい</li> <li>②子育て支援施設は駐車場が狭いので使いづらい</li> <li>③子育て支援施設があることを知っていれば小さいときから利用したかった</li> <li>④祝日も開いてくれるとうれしい</li> </ol> </li> <li>■市子育て支援担当           <ol style="list-style-type: none"> <li>①広い公園・ボール遊び等のできる広場・公園等が少ないため「道の駅」に、子どもたちが思いきり遊べるスペースを整備してほしい</li> <li>②人の集まる「道の駅」に土・日曜日にも利用できる子育て支援施設を整備し、子育て支援の冊子やメールマガジンの案内を設置して、本市の子育て支援サービスの更なる周知を図りたい</li> </ol> </li> </ul>



## 「道の駅」における方向性

※「道の駅」の整備とあわせて想定される対応の方向性であり、すべてを対応するものではない

- ①駐車場の広い子育て支援施設（屋内）と広場・公園等を設置する
- ②道の駅で「出張広場」を開催し、子育て相談等の機会を増やし、子育て世帯の孤立化を防ぐ
- ③気軽に車で寄りやすい場所に子育て支援施設（屋内）と公園を設置し、利用者を増やし情報発信能力を高める
- ④土・日曜日にも出張相談や情報提供等を行えるようにし、多くの市民が利用しやすくなる

※「出張広場」：地域に出向き開催する親子交流の場



親子がふれあえる施設を備えた公園イメージ



子育て支援施設イメージ(100~150m<sup>2</sup>を想定)

## 2) 防災・減災

現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日進市は南海トラフ地震の防災対策推進地域</li> <li>・総合運動公園は、高次緊急輸送道路沿線から離れている</li> <li>・防災倉庫は容量が限られている</li> <li>・熊本地震では、支援物資の滞留、長期化する避難生活等の課題が挙げられている</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■南海トラフ地震を想定したさらなる防災体制の充実が必要</li> <li>■熊本地震における支援物資の滞留、長期化する避難所体制等、新たな課題への対応が必要</li> <li>■救護所近くに耐震性貯水槽等水源の確保が必要である</li> </ul>
問題点 (現施策 進行上の 問題点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■防災体制の整備：総合運動公園の問題               <ul style="list-style-type: none"> <li>→公園までの経路は、緊急輸送道路から離れ、途中に交差点狭小箇所や道路幅員狭小箇所があり通行困難</li> <li>→総合運動公園は防災機能が集中し手狭</li> <li>→公園内では道路幅が狭い等大型車両の進入が困難</li> </ul> </li> </ul>

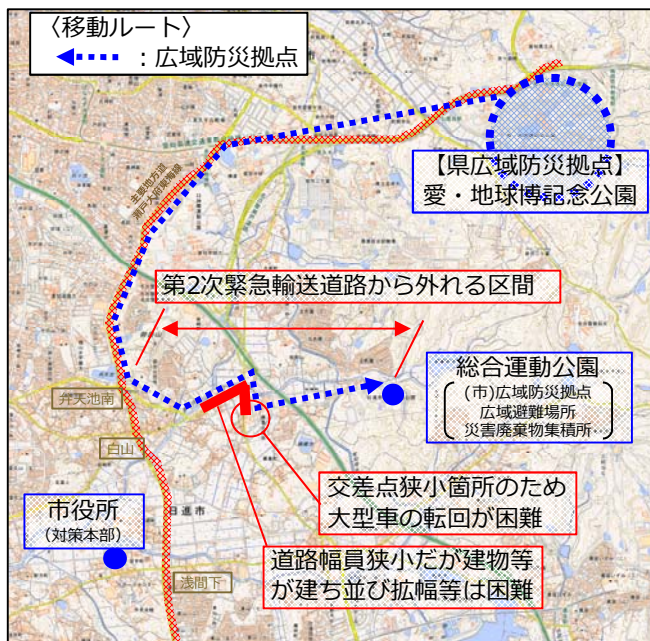


図 8 現在の防災拠点までの支障箇所



図 9 現在の防災機能イメージ



## 要望等

### ■ 日進消防署

- ① 防災倉庫、耐震性貯水槽の整備をしてほしい
- ② 消防署周辺にヘリポートを設置してほしい

### ■ 市防災担当

- ① 総合運動公園は防災機能が集中し手狭である
- ② 第2次緊急輸送道路沿線に人命救助の活動拠点を整備したい
- ③ 市内に防災用ヘリポートがないため整備したい
- ④ 防災倉庫、耐震性貯水槽が必要
- ⑤ 多くの人が立ち寄る道の駅で防災啓発をしたい

### ■ 市内大学

- ① 熊本地震のボランティアにて住民の長期避難生活を支援している。これらの経験を活かした情報発信、体験学習の場を提供できる（名古屋学芸大学）
- ② 「新たな避難所システムのあり方」等を学ぶ防災学習の場としても考えられる（例…避難所生活：名古屋学芸大学、避難所システム：名古屋商科大学）



## 「道の駅」における方向性

※ 「道の駅」の整備とあわせて想定される対応の方向性であり、すべてを対応するものではない

- ① 人命救助機能を総合運動公園から緊急輸送道路沿線の道の駅に移転
- ② 道の駅にヘリポートを設置する
- ③ 道の駅に防災倉庫、耐震性貯水槽を設置する
- ④ 道の駅で防災啓発を行う
- ⑤ 防災をテーマに、大学参加型の情報発信、防災学習の場を創出

### 3) 農業振興

現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家の減少、農地面積の減少、遊休農地が増えている</li> <li>・日進市の農業は稲作中心。農業産出額は低い</li> <li>・市民農園や農業体験のニーズは高く、特に農業体験は子育て世代からの需要が高い</li> <li>・市民アンケートでは、「農産物直売施設」を求める声大きい</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■新規就農者等後継者を増やしていきたいが、増えない</li> <li>■遊休農地を解消していく必要がある</li> <li>■市民の農に対する理解向上を図る必要がある</li> <li>■農業体験の需要が高いが、対応が十分にできていない</li> </ul>
問題点 (現施策 進行上の 問題点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■田園フロンティアパーク構想（基本計画）策定後の問題点               <ul style="list-style-type: none"> <li>→農業従事者数が増えないため、事業の計画が進まない</li> <li>→生産から販売までの仕組みが確立しておらず、収支の見込みが立たないため、やりがいが見出せない</li> <li>→都市住民のニーズは高いが、市東部エリアの農園は市街地から離れているため、利用率が上がらず、市民農園を増やせない</li> <li>→駐車場やトイレ等が整備された市民農園が少ない</li> <li>→体験の場、レクリエーション農園の整備を進めようとしても、多くの人を呼び込むことが難しい</li> </ul> </li> </ul>
要望等	<ul style="list-style-type: none"> <li>■市農業振興担当               <ol style="list-style-type: none"> <li>①「道の駅」との一体化による田園フロンティアパーク構想（基本計画）の事業推進</li> <li>②農園の一部を「道の駅」区域に含め、市民農園に来る人や「道の駅」に集まる人に対して、情報発信機能を活かし、市民農園、農学校、体験農園のPR、参画を促し、事業を推進させたい</li> </ol> </li> </ul>



#### 「道の駅」における方向性

※「道の駅」の整備とあわせて想定される対応の方向性であり、すべてを対応するものではない

- ①田園フロンティアパーク構想（基本計画）における既存の市民農園、実習農園を「道の駅」に含める
- ②当面は田園フロンティアパーク構想（基本計画）の休憩施設、管理施設、防災施設、農学校、レストランの施設について、「道の駅」で整備する施設を利用することとし、田園フロンティアパーク構想（基本計画）との一体化を図る
- ③「道の駅」に集まる人に対して、市民農園、農学校、体験農園のPR、参画を促し、田園フロンティアパーク構想（基本計画）の事業を推進させ、新規就農者の育成につなげる

#### 4) 市民まつり（産業まつり）、にっしん夢まつり

※市民まつり（産業まつり）、にっしん夢まつりについては、他の施策の課題・対応の方向性としてまとめている地域課題（子育て支援、防災・減災、農業振興）とは異なり、具体的なイベント行事の現状と問題点を整理しているものであり、「道の駅」整備とあわせて対応できるかの可能性について分析するものである

現状と 問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所では、市民まつり等多くのイベントが開催されているが、大きなイベントを行うことができる広場がないため、イベント機能が分散化している</li> <li>・市役所で行われるイベント時の駐車場が不足している</li> <li>・イベント開催に伴う交通規制や交通渋滞により、エコドーム・図書館が利用しづらい</li> <li>・駐車場がイベント会場となるため、住民票発行等の休日窓口サービスの利用者から「非常に利用しづらい」「利用できない」との声が多い</li> </ul>
------------	---

表 1 イベント概要

	イベント名	主催	開催時期	来場者数 (H29)	出店者団体数
1	530 運動	市	5月	905 人	-
2	わいわいフェスティバル	市	7月	4,500 人	-
3	にっしん夢まつり	商工会・市	9月	90,000 人 (H28 実績)	70 店 (103 ゾーン)
4	市民まつり (産業まつり)	市 (J A・商工会)	11月	42,000 人 (20,000 人)	約 90 ゾーン
5	にこにこウォーク	市	3月	756 人	-



要望等	<p>■市：市民まつり（産業まつり）担当</p> <p>①以前は個々に開催していた各イベントを市民まつりとして同時期に開催するように調整してきたため、市役所からメイン会場が移転となると、市民まつり開催自体について各団体と再調整が必要となる。こうした問題はあがあるが、「道の駅」に会場を移すこと自体は特に支障がない。</p> <p>②現在でも駐車場が不足しているため、「道の駅」で開催した場合でも駐車場の確保が大変。また、市役所を会場駐車場とした場合、歩行者専用道路の確保が課題となる。</p> <p>■市：にっしん夢まつり担当</p> <p>①大規模なイベントや行事に対応した多目的広場を整備してほしい</p> <p>②くるりんばす・シャトルバスの発着場をイベント会場の近くに整備してほしい</p>
-----	---



「道の駅」における方向性
<p>①「道の駅」で市民まつり等のイベントの開催が可能となれば、分散化しているイベント機能を集約でき一体感のあるイベントを開催できる</p> <p>②駐車場不足の軽減や利便性向上を図るため、バス発着場をイベント会場近くに配置し、利用しやすく分かりやすくする</p>

## 2-3 整備コンセプトの実現イメージ

「道の駅」の整備コンセプトの実現イメージは、次のとおりです。

### 整備コンセプト

## 市民が集い にぎわい 成長し 都市をデザインする「道の駅」

	集い	⇒	にぎわい	⇒	成長・都市をデザイン
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世代も含めた幅広い世代の交流の場として、<u>広場や子育て支援施設に集まり、楽しく遊びながら、育児に関する悩みの相談や、子育て世代同士で情報交換することで、子どもと親の世代を越えた仲間づくりの場となる</u></li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種子育てイベントに参画し、<u>子どもも親も楽しく遊び、にぎわい、仲間の輪を広げ、子育て世帯の孤立化を防ぐ</u></li> <li>幅広い世代との交流や情報交換を通じて、<u>自分の住んでいる地域について知り、地域コミュニティに関心を持ち、地域のにぎわい・活性化にもつながる</u></li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>「道の駅」から仲間の輪が広がることで、<u>親だけでなく、社会全体で次世代の子ども一人ひとりを見守り、応援するまちへと成長し、市の子育て支援施策の向上につながる</u></li> </ul>
防災・減災	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災地でのボランティア活動等を積極的に行っている市内大学によるおはなし会や防災学習等を「道の駅」で実施し、<u>市民が参加することで防災・減災への理解が深まる</u></li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>平常時からの防災学習等の官学連携の防災拠点として活用することで、<u>市民や大学生等でのにぎわい、地域一体かつ総合的な防災拠点となる</u></li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学の知識の蓄積を活かした官学連携による防災プラットフォームの構築拠点として「道の駅」が<u>成長を続け、市の防災施策の向上につながる</u></li> </ul>
農業振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民農園、体験農園、実習農園に隣接する「道の駅」に<u>市民が集まり、「道の駅」利用者が農の楽しさや食への興味を高め、農業への理解が深まる</u></li> <li>実習農園や農学校に参加する<u>農業従事希望者が集まるようになり、農業体験施設利用者同士の交流が高まる</u></li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>日進市内全域で市民交流や農業振興を深めて、<u>それぞれがネットワーク化されて一層にぎわっていく</u></li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業体験施設で「農」とふれあい、栽培技術指導や農作業の指導方法等を学んだ市民が、<u>市内の遊休農地でそれぞれの活動や取組みを行うことで、遊休農地の解消・農地保全につながり、農業が成長する</u></li> </ul>
市民まつり等	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民（大学生・コミュニティ等）が「道の駅」を舞台に、<u>まつり・イベントの企画・検討に参画する</u></li> <li>「イベントによるにぎわい創出の場」として「<u>にしん夢まつり</u>」や「<u>にしん市民まつり</u>」のメイン会場として利用される</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な市民が参画することで、「道の駅」が<u>にぎわうとともに、コミュニティが広がる</u></li> <li>様々な市民が集まり、<u>イベントを形にすることへの充実感を多くの人が感じる</u></li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントが開催され、輪が広がることで市民自治活動が活発化し、「道の駅」を拠点とした様々なイベントが<u>継続的にプロデュースされ、成長を続ける</u></li> <li>「道の駅」には多くの人が集まるとともに、日進市における市内外への魅力発信にもつながり日進市全体の活性化に寄与する</li> </ul>

	集い		にぎわい		成長・都市をデザイン
コミュニティ形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内ではNPO団体など一定の活動がなされているが、活動の充実に伴い、自らの活動を情報発信したいとの意向もある</li> <li>活動する中では、他のNPO団体などの活動の方法等にも興味がある</li> <li>NPO団体などの活動でできる空間が「道の駅」に用意されることで、多くのNPO団体などが「道の駅」で活動できるようになり、さらに人が「道の駅」に集まってくる</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なNPO団体などが集まり、情報交換や活動が活発化することで、にぎわいが増してくる</li> <li>NPO活動中に立ち寄った（主）瀬戸大府東海線利用者がNPO活動に興味をもち、さらなる参画につながることで、にぎわいが増す</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様なNPO団体などや人が集い、にぎわうことで、新たな発想を得る等、活動のレベルアップが期待される</li> <li>活動が周辺地域の人たちに広がり、新たなコミュニティが形成されていくことで都市のさらなる成長につながる</li> <li>施策が運用化されることで、「道の駅」からコミュニティの新たなあり方の施策が発信できる</li> </ul>
大学連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>オシャレなカフェに若者が立寄ったり、サークル活動（メニューレシピ開発、音楽、ダンス等）、イベント活動のために大学生が「道の駅」に集まる</li> <li>授業活動の一環として、「道の駅」のイベントでレポートや単位がとれるようになれば、さらに大学生が集まる可能性がある</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学生がイベントに参画することで、次のイベントへの参加につながり、他の大学生も集まりにぎわいが増す</li> <li>管理栄養学部、ヒューマンケア学部、経営学部など、様々な大学生が集まり、にぎわうようになる</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つのテーマに対して、これまで一つの専門学部だけで考えてきたことが、様々な大学生が集まり議論することで専門性が統合され、新たなアイデアの発見につながり、「道の駅」で展開・運用化され、市の成長、都市のデザインにつながる</li> </ul>
体験学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土料理や災害時の調理方法等の料理教室、地域の高齢者、学生、市民活動団体による伝統技術等の体験学習講座に、市民をはじめ、多様な人が「道の駅」に集まってくる</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの人が体験学習に参加することで、講座等の種類や回数が増え、次の体験学習への参加につながり、新たな参加者も加わってにぎわいが増す</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種体験学習を通じて人の輪が広がることでさらに数多くの多様な取組みにつながり、「道の駅」を拠点とした様々な体験学習が継続的に開催され、成長を続ける</li> </ul>
市民自治活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会等、地域の組織と連携した防災訓練や防災イベントに多様な人が集まり、交流が深まる</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>人々の交流が、さらなる市民自治活動への参加につながり、まちに活気が広がり、まち全体のにぎわいにつながる</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な世代の人が集い、利用しやすい、活動と交流の場として「道の駅」が活用され、市民自治活動のレベルアップが期待される</li> </ul>
再生エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>「道の駅」に設置された太陽光発電や風力発電の発電データ公開等、エネルギー使用状況を見える化することで、環境をテーマにしたイベント開催につながり、多様な人が集まる</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>「道の駅」で再生エネルギーを積極的に活用することで、「道の駅」が再生エネルギーの活用についての知識の習得と実践の場となり、学校行事の一環として親子が集まる等、にぎわいが増す</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の環境意識の高まりによって、再生エネルギーの利用率が上がることが期待され、市の環境施策の向上につながる</li> </ul>

※上記に示す子育て支援、防災・減災、大学連携などの個別テーマに限らず、様々な活動主体が集まり活動する中で、相互に関連し連携していくことで、整備コンセプトの実現につながる。

## 2-4 利用者ニーズ調査

### (1) 市民アンケート調査、各種団体ヒアリング概要

「道の駅」に関する調査は、基本構想を策定するため、平成 28 年度に 3 つのアンケート調査、12 の各種ヒアリング調査を行いました。

平成 29 年度は、「道の駅」における導入すべき機能・施設、市民活動のイメージ等を把握するため、2 つのアンケート調査、7 つの各種ヒアリング調査等を行いました。

平成 29 年度の調査は、基本計画を策定するために行った調査であり、特に「道の駅」で展開される活動イメージの参考となるため、次ページ以降に結果概要を示します。

表 2 市民アンケート調査、各種団体ヒアリング一覧表

#### ■平成 29 年度調査

番号	アンケート調査	実施日	備考
1	市民アンケート調査（無作為抽出）	H29.7.18 ～H29.8.4	
2	主要地方道瀬戸大府東海線 利用者アンケート調査	H29.7.23	
番号	各種ヒアリング先	実施日	備考
1	ファミリーステーション R i n	H29.7.31	にっしん子育て総合支援センター の指定管理者（子育て支援）
2	日進野菜塾	H29.8.6	「道の駅」候補地周辺の活動団体 （農業振興）
3	日進絆子ども食堂	H29.8.8	ヒアリング希望団体（子育て支援）
4	名古屋商科大学（地域研究サークル）	H29.7.28	委員関係大学（大学）
5	名古屋学芸大学（ヒューマンケア学部）	H29.8.7	「道の駅」活用事例の紹介 （大学）（防災・減災）
6	本郷区	H29.9.5	地元区
7	にっしん観光まちづくり準備委員会	H29.8.29	

#### ■平成 28 年度調査 ※基本構想を参考

番号	アンケート調査	実施日	備考
1	市民アンケート調査（日進市図書館）	H28.12.2～ H28.12.3	
2	利用者ニーズ調査（道の駅瀬戸しなの）	H28.12.2～ H28.12.3	
3	利用者ニーズ調査（道の駅藤川宿）	H28.12.2～ H28.12.3	
番号	各種ヒアリング先	実施日	備考
1	J A あいち尾東	H28.11.24	関連団体調査
2	日進市商工会	H28.11.22	関連団体調査
3	J A あいち尾東日進園芸センター	H28.6.20	関連団体調査
4	あぐりん村（長久手市）	H28.6.27	周辺同様施設調査
5	瀬戸しなの（瀬戸市）	H28.6.27	周辺同様施設調査
6	げんきの郷（大府市）	H28.7.8	周辺同様施設調査
7	名古屋学芸大学 （管理栄養学部、ヒューマンケア学部）	H28.6.26 H28.7.27	市内、周辺大学調査
8	名古屋外国語大学（現代国際学部）	H28.9.14	市内、周辺大学調査
9	愛知学院大学（文学部）	H28.9.21	市内、周辺大学調査
10	名古屋商科大学（経営学部）	H28.8.19	市内、周辺大学調査
11	椋山女学園大学 （人間関係学部、生活科学部）	H28.7.25 H28.7.29	市内、周辺大学調査
12	愛知淑徳大学（CCC）	H28.8.5	市内、周辺大学調査

## (2) 市民アンケート調査

### 【調査概要】

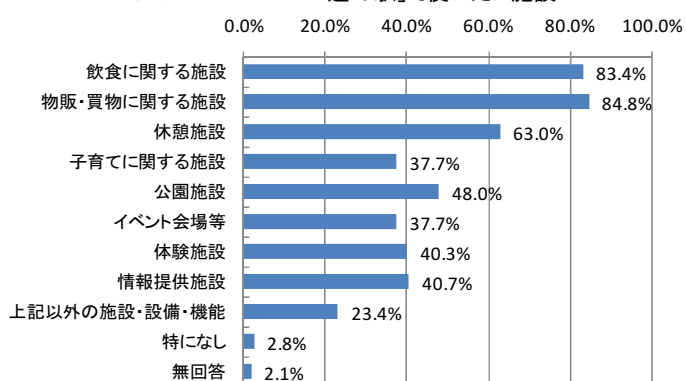
- ・ 調査対象：平成 29 年 7 月 1 日現在で日進市内在住の 18 歳以上の方から無作為抽出で 1,000 名
- ・ 調査期間：平成 29 年 7 月 18 日（火）～平成 29 年 8 月 4 日（金）
- ・ 回収票数：427 票（回収率 42.7%）
- ・ 調査方法：郵送配布・郵送回収

### 【結果概要】

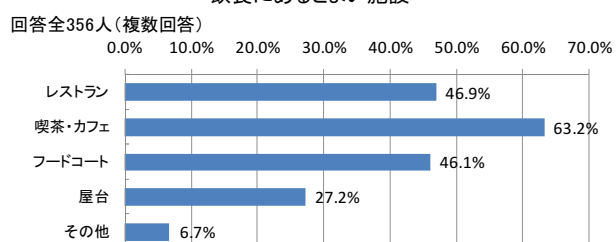
- ・ **主要地方道瀬戸大府東海線の利用状況**としては、全回答のうち約 5 割が買物、次いで約 2 割が遊びを目的に利用しており、日頃利用しないとの回答は約 1 割であった。
- ・ **「道の駅」の整備に期待する効果**としては、農業の活性化（農産物の入手や農業体験）、商工業の活性化（特産品の購入）、家族や親子で訪れる遊び場の増加、市外からの来訪者増加に伴う活性化等が期待されている。
- ・ **「道の駅」で使いたい施設**として、物販・買物に関する施設、飲食に関する施設との回答が多く、次いで休憩施設、公園施設、体験施設、情報提供施設が多い。
- ・ 飲食に関してあるとよい施設は、喫茶・カフェ、レストラン、フードコートが多い。
- ・ 子育てに関してあるとよい施設は、屋内の遊び場・プレイルームが 8 割を占める。
- ・ 飲食に関する施設の使い方は、友人とランチ・お茶をしたい、家族・子ども連れで食事を希望する意見が多く、モーニング利用、デート・女子会をするという意見もみられた。
- ・ **物販・買物に関する施設の使い方は**、新鮮で安心安全な地元の野菜購入を希望する意見が大半を占めている。
- ・ その他の施設の使い方は、公園・広場を子どもの遊ぶ場所や散歩に利用、サークル活動や趣味等で多目的スペースを利用との意見が複数みられたほか、防災時に利用、仕事中のトイレ・休憩施設として利用という意見もみられた。

回答全427人(複数回答)

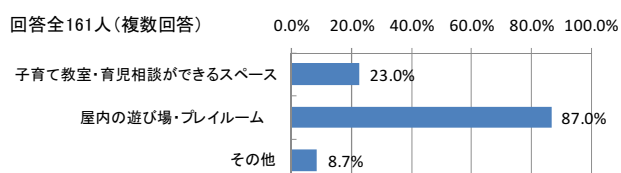
#### 「道の駅」で使いたい施設



#### 飲食にあるとよい施設



#### 子育てに関してあるとよい施設



「道の駅」に整備する施設は、飲食や物販・買物において地元の野菜や特産品を前面に出した日進市らしさが求められているほか、友人や家族と一緒におしゃれで落ち着いた空間でゆっくりできる施設が求められている

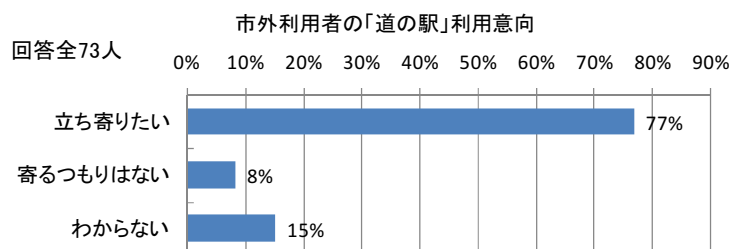
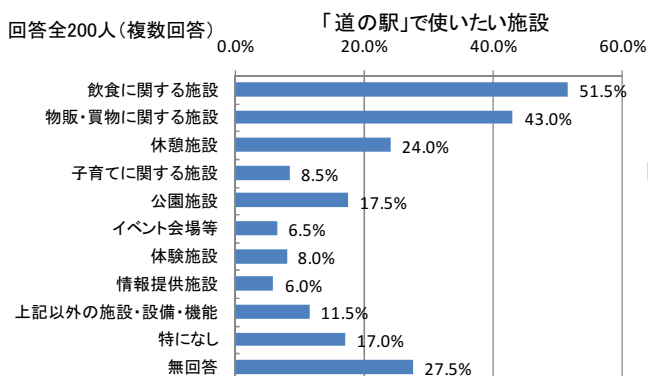
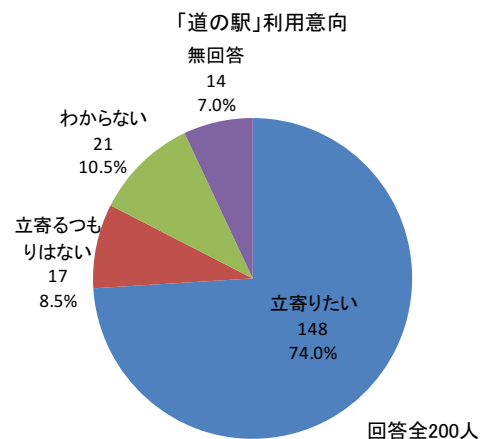
### (3) 主要地方道瀬戸大府東海線 利用者アンケート調査

#### 【調査概要】

- ・ 調査対象：主要地方道瀬戸大府東海線沿道のコンビニエンスストア来店者
- ・ 調査期間：休日（平成 29 年 7 月 23 日（日）） 午前 10 時～午後 6 時
- ・ 回収票数：200 票（2 店舗実施のため各 100 票前後）
- ・ 調査方法：面接聴取法

#### 【結果概要】

- ・ **主要地方道瀬戸大府東海線の利用状況**としては、回答者の中では市外居住者の利用が約 4 割であり、市外居住者のうち日頃から主要地方道瀬戸大府東海線を利用する人は約半数で、目的は通勤、遊び、買物が多い。
- ・ **「道の駅」の整備に期待する効果**としては、農業の活性化（農産物の入手や農業体験）、おしゃれな飲食店の増加、趣味や余暇を楽しめる場の増加等が期待されている。
- ・ **「道の駅」で使いたい施設**として、飲食に関する施設との回答が最も多く、次いで物販・買物に関する施設が多い。
- ・ **飲食に関する施設の使い方**は、おしゃれでゆっくりできる、色々な料理やお店がある、フードコート、特産品を使った日進市らしい店を希望する意見が多く、子ども用スペースや安価で学生が気軽に寄れる場という意見もみられた。
- ・ **物販・買物に関する施設の使い方**は、新鮮な野菜購入を希望する意見が半数以上あり、自分で作った野菜が出品可能、地元の特産品、地域活性化を求める意見が多くみられた。
- ・ その他、足湯・温泉やドッグラン、広い駐車場や綺麗なトイレ、授乳室やキッズスペースがほしいとの意見が複数みられたほか、周辺道路の渋滞や混雑を懸念する意見が多くみられた。
- ・ **「道の駅」ができた場合の利用意向**としては、7 割以上が立ち寄りたいと回答。
- ・ 回答者のうち、**市外利用者の「道の駅」利用意向**は、8 割近くが立ち寄りたいと回答。



「道の駅」に整備する施設は、飲食や物販・買物において地元の野菜や特産品を前面に出した日進市らしさが求められているほか、子ども連れを含む道路利用者がゆっくり快適に休憩できる施設が求められている



## (4) 各種団体ヒアリング

### 1) NPO法人ファミリーステーションRin

子育て支援

#### 【要望】

- ・主に市内の0～2歳児を持つ子育て世代を対象に子育て支援活動を行っている。「道の駅」が整備されたら、是非、「道の駅」で子育て支援活動を展開したい。

#### 【活動概要】

主に市内の0～2歳児を持つ子育て世代を対象に子育て支援活動を行っている。「今求められている子育て支援とは、どういうものか」を考えながら、「Rinのおうち」を拠点に、「男女に関わらず一人ひとりの個性が尊重される子どもたちも親たちも自立して、いきいきと生活できるまちづくり」を目指して活動している。

また、平成19年度からいっしん子育て総合支援センターの指定管理者として、施設の管理・運営を行っている。



### 2) NPO法人日進野菜塾

農業振興

#### 【要望】

- ・都市住民に農と自然体験の楽しさや魅力を提案するため、野菜等を育てる農業体験や収穫体験、採れたて野菜を使った料理教室等の講座を行っている。「道の駅」が整備されたら、是非、活動拠点として利用したい。
- ・単なる産地直売施設ではなく、無農薬野菜、農産物加工品やレシピ紹介等、生産者が情報発信できるような取り組みを、是非、「道の駅」で行いたい。
- ・講座のできる会議室のような施設や簡易な調理室、加工施設を設置してほしい。

#### 【活動概要】

2005年(平成17年)から日進市において田んぼ、畑を中心に農と自然の体験、食育等の活動を進めるNPO法人。これまで、地元農家や他分野NPO、企業、大学、行政等と連携を重ねている。現在、農業体験農園の運営、朝市の事務局、オーガニック野菜の販売等を手がけ、都市住民に「農ある暮らしの楽しさ」を提案している。



## 3) 日進絆子ども食堂(主催：いきいき塾NPO絆)

## 【要望】

- ・不特定多数の人たちが集まるような「道の駅」で、子ども食堂の活動を展開したい。これにより子ども食堂のPRにもなり、活動運営費の確保も期待できる。
- ・安全に遊べる公園や広場があり、簡易な調理室あるいは公園のベンチかまど等があれば、イベント的な活動ができるので、そういった施設を整備していただきたい。イベント的に「道の駅」を活用したい。

## 【活動概要】

市民活動団体「いきいき塾NPO絆」が主催する子ども食堂は、孤食の子どもへ栄養満点の食事提供、子どもをはじめ地域住民が安心して過ごせる場所を作りたいという思いから、平成28年度に活動を開始。市民や市内事業者からの食材提供、大学生のボランティアスタッフ等の協力を得ながら、子どもの居場所づくりや保護者のコミュニティづくりを目指している。



## 4) 名古屋商科大学(地域研究サークル)

大学

## 【意見】

- ・日進市の特性を考えると、30～40歳代の子育て世代が利用できる環境整備が、日進市の特性を活かした「道の駅」になると思う。
- ・集客は女性視点の意識が重要であり、女性が利用したくなる店舗やデザイン性は、集客や利用促進につながる。施設全体の統一したデザイン性も重要である。
- ・オシャレなカフェの存在は、集客に直接影響するし、女性の方がInstagram<sup>※</sup>等のつながりや情報収集として利用している傾向があるため、その点からも女性視点で利用したくなる、カフェのような飲食施設は重要と思われる。
- ・Instagram等SNS映えする施設・設備・デザインの導入。少しの手間と事業費を掛けることで、利用者がSNSで情報を拡散→新たな利用者の呼び込みの流れができ、費用対効果の高い宣伝効果を得ることができる。

※Instagram：スマートフォンで、写真や動画を簡単にシェアすることができるアプリ

## 5) 名古屋学芸大学(ヒューマンケア学部)

大学

防災・減災

## 【意見】

- ・熊本地震のボランティアにて住民の長期避難生活を支援している。これらの経験を活かした情報発信、体験学習の場を提供できる。
- ・「新たな避難所システムのあり方」等を学ぶ防災学習の場としても考えられる。

## 6) 本郷区

## 【意見】

- ・農産物直売施設は、日進市では野菜も揃わないので、尾張・知多等の他地域のものも入れながら地元野菜を入れた方がいい。
- ・市民まつりや花火等のイベントの開催も「道の駅」で開催するとよい。
- ・音楽や日進市の有名なものに関しては、「道の駅」で発表や展示の場として利用するとよい。

## 【要望】

- ・防犯や犯罪等に対応するため、防犯カメラを設置してほしい。
- ・田園フロンティアパーク構想のような計画を作っても進んでいない状況では困る。「道の駅」は、計画だけでなく、しっかり整備するようにしてほしい。
- ・渋滞対策に配慮してほしい。
- ・通り抜けが心配であるため配慮してほしい。特に保健センターの前の道路が抜け道として利用されているため道路を拡幅してほしい。

## 7) にっしん観光まちづくり準備委員会

## 【要望】

- ・平成 29 年度末を目標に観光協会を設立し、同時に DMO 候補法人の登録を行う予定である。
- ・「道の駅」は、市の中央部にあり、くるりんばすのバス停が検討され、市民も集まりやすい。
- ・DMO 活動拠点（事務所）を「道の駅」に設置することで、より観光活動がしやすくなる。
- ・平成 29 年度の第 2 回「にっしん観光まちづくり準備委員会」で、DMO 活動拠点（事務所）を「道の駅」に設置することを視野に入れておくべきとの検討を行った。
- ・「道の駅」に備える施設に、DMO 活動拠点（事務所）の設置をお願いしたい。